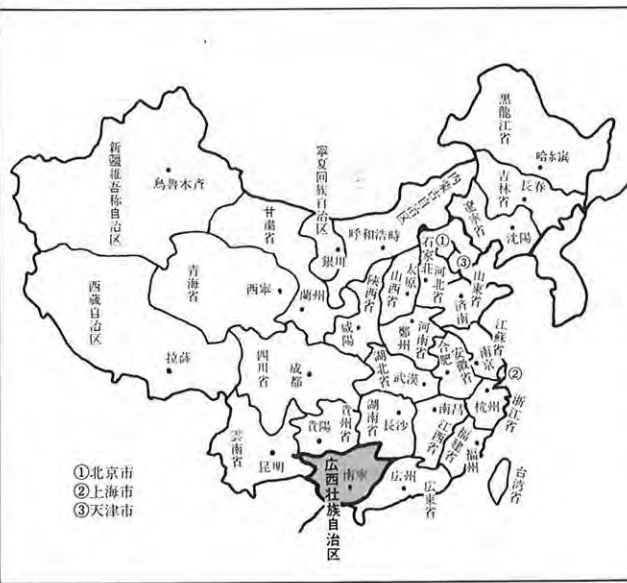


治区を訪れ、また自治区からも農業考察団が本県を訪ねるなど相互の交流を積極しながら、本年五月二十日、民間の方々の多数の参加を得て、同自治区の南寧市で友好県提携の調印が行われました。そして、最初の交流事業として、本県では、自治区から三カ月の期間（九月末～十二月初）で、農業技術研修生の受入れを実施しました。また、十月には、同自治区人民政府の覃応機主席を団長とする友好代表団が来熊され、県内各地、各機関を訪問され、友好を深められました。今後の交流事業については、この来熊の際、具体的な協議が行われ、熊本県が野菜栽培におけるビニールハウス施設や畜産の技術指導等を行うこととなり、一九八三年と一九八四年には、物産展も相互に開催することとなりました。その他の分野においても、今後相互に協議を重ねながら、各種の交流を進めていくこととなりました。

ここで、以下に自治区の概要について紹介します。



一行を歓迎する熊本県訪中団一行



広西壮族自治区(中華人民共和国)

面積二、三六、〇〇〇km²、人口三、六〇〇万人、区都 南寧市

一、略史 紀元前二二二年、秦の始皇帝は中国を統一した後、この地に桂林郡を置き、そのため広西は「桂」と略称された。元朝(一三六三年ごろ)時代に「広西中書省」が設けられこれが広西省の始まりである。清朝の時に「広西省」となり、省都は桂林に在った。一九四九年十一月、省都は、南寧市に移された。一九五八年三月、憲法の定めるところにより、民族区域の自治政策を執行し、広西省を改め、「広西壮族自治区」が成立した。

二、自然 本区の周囲は、海拔高度一、〇〇〇mないし一、五〇〇m前後の山地に取り囲まれ、「広西盆地」の称がある。全省面積の半分が石灰岩から成り、カルスト地形が多く分布し、石林や岩洞地下伏流などが多い。特に桂江、漓江流域のカルスト地形の景観は優美で、「桂林の山水は天下に甲たり。陽朔の山水は桂林に甲たり」といわれ、すばらしい景勝地として、世界的に有名である。

本区の気候の特徴は、夏が長く、酷熱多雨であり冬が暖かい。一月の平均気温は北から南に六℃から十五℃。七月の平均気温は西北から東南に二十三℃から二十八℃である。年降水量は一、一〇〇mmから二、八〇〇mm。

三、経済 本区の農作物は、一年二作か三作である。西北部には畑地が多く、東南部には水田が多い。食糧作物は、米、とうもろこし、さつまいもが主であるが、同区は、中国米作の重要地区の一つとなっている。工業作物もさとうきび、落花生、たばこなどがあるが、さとうきびは国内主要産出地の一つである。さらに、熱帯、亜熱帯の果物を数種産し、砂地ごぼん、竜眼、荔枝は全国で有名。森林はよく生い茂り、多種類の用材と熱帯樹の貴重産物を産出するが、柳州の杉は、最も著名である。北部湾は有名な大漁場であり、魚類は数百種に達し、沿岸には珍珠(真珠)、かきなどの水産養殖場がある。

本区内は鉱産物の種類が多く、埋蔵量も多い。スズ、マンガンの埋蔵量は全国一、亜鉛二位、アルミ鉱四位、タンクスレン五位の埋蔵量を誇る。また、北部湾の海底油田は、現在ボーリング中である。石灰岩の分布は広範で良質であり、セメント、カーバイトのすぐれた原料となる。解放後、工業の発展は目覚ましく、主なものとして鉄鋼、機械、電力、製糖などがあり、特に製糖工業は、中国の主要基地の一つである。また、伝統手工芸には壮錦などがある。

メッセージ

友好的な訪問、深い印象

●広西壮族自治区人民政府友好代表団

団長 覃 覃 応機 主席

日本国熊本県沢田一精知事のお招きにより、私は中華人民共和国広西壮族自治区人民政府友好代表団を率いて、一九八二年十月、熊本を友好訪問致しました。

十月八日から十八日まで、我々代表団は、熊本を初めとして、本渡、牛深、八代、人吉、菊池、荒尾の各市を訪問しましたが、その間、沢田知事、ならびに県庁と議会、各市役所と議会、さらに各方面の関係者と多くの県民の方々の熱烈な歓迎と接待を受けました。沢田知事と県庁の関係者の方々には、御多忙中にもかかわらず、都々、代表団の視察に付き添って頂き、我々の滞在はたいへん快適なものとなりました。ここに、私は広西壮族自治区人民政府と人民を代表して、沢田知事と県庁及び議会の諸幹部、暖かく応待して下さった各市の関係者、各界の関係者、さらに多くの県民の皆様に謹んで感謝の意を表します。

に、広西友好代表団の今回の訪問は、沢田知事が今年五月に熊本県友好代表団を率いて広西を訪問されたことに對する答礼訪問であり、古い友人に逢い、新しい友人を得、理解、友情を深め、両区、県の友好関係の一層の発展に貢献するものであります。主人の暖かく行き届いたおもてなしは、我々代表団のスケジュールを滞りなく遂行させ、今回の訪問を円満な成功に終わらせました。

中国の一つの諺に「百聞は一見に如かず」というのがありますが、訪問中に我々は、熊本県の工業、農業、牧畜、漁業、教育、科学研究所等を見学し、我々は正に自分の眼で「勤勉で賢実な熊本県民は、沢田知事をはじめとする県の指導の下で、経済を自覚しく発展させた」ということを確認することができました。特に、二十年の間に、熊本はすでに元来の農業を主とする県から、着実に工業発展の自治体へと移り変わったのです。工業の総生産量は、すでに工業の総生産量の八六パーセント以上を占めています。代表団の見学した工農業の生産部門の至る所に先進的な経営管理と科学技術が見られ、私達に深い印象を残し、代表団の見学の一つの大きな収穫となりました。

八日間の見学を経て、熊本県に對する大まかな理解の上で、代表団は広西と熊

本県の友好交流項目について、沢田知事及び県の関係者と会談を行いました。主催者側の周到な手配により会談はスムーズに進み、全会談は熱烈な友好的雰囲気の中で行われました。この会談は両区、県と人民の間の深い友情を充分に表しました。会談の内容については、すでに沢田知事と私の共同記者会見で発表致しました。喜ばしいことに我々の訪問が終わつてもなく、会談で成立した協定の交流項目はすでに実施に移されました。

ところで、現在、広西の各民族人民は、全中国人民とともに、我が党の「十二大」で制定した経済建設の偉大な目標を実現するために、懸命に奮闘しているところであります。広西は二十三万六千余平方キロメートルの土地を持ち、三千六百万余の人民を有し、豊富な自然資源にも恵まれています。一方、熊本県は経済力と技術を持っています。我々双方は平等互恵の原則の下で、経済と技術との協力を押し進めていくことが可能なのです。我々は両区、県の経済と技術の協力の促進に燃るべき貢献をするために、熊本県の経済界、科学技術界、その他各方面の方々が広西を訪問、視察されることを歓迎致します。

十月の熊本は、秋空高く気はさわやかで、風おだやかに日はうららかなりとい



小学校を訪問し、児童の歓迎をうける広西壮族自治区友好代表団